開講科目名／Course	環境保健学概論	
ターム・学期／Term・Semester	2026年度／Academic Year　　１学期／First	
開講区分／semester offered	１学期／First	
単位数／Credits	1.0	
学年／Year	1	
主担当教員／Main Instructor	小嶋　光明	
担当教員名／Instructor	小嶋　光明、恵谷　玲央	
必修・選択 ／compulsory subject	必修	
講義形態 ／Class Type	講義	
授業回数	10	
科目の目的と概要	環境汚染が人の健康に及ぼす影響を、公衆衛生・環境保健学の枠組みで理解し、科学的根拠に基づいて健康リスクを評価し、社会で実装される対策（リスク管理・リスクコミュニケーション）まで説明できる力を養う。大気・室内環境などの身近な生活環境から、化学物質・粒子・放射線などの物理・化学的要因に起因する曝露に伴う健康影響、さらに地球規模の環境変化に伴う健康影響まで、具体例を通して環境リスクについて説明できるようになる。あわせて、環境要因が関与する代表的な健康影響の一つとしてがんを取り上げ、発がんの基本的な仕組みと、疫学・毒性学的根拠にもとづく評価とリスクの成り立ちや意思決定の考え方について説明できるようになる。	
到達目標	1. 私たちの健康と環境との関係を説明できる。 2. 環境汚染による曝露の特徴（曝露経路、曝露量・頻度、感受性、体内動態）を説明できる。 3. 環境要因が関与する健康影響の代表例として、がんとは何かを説明できる。 4. 健康影響を評価する基本的方法（疫学研究、毒性試験、エビデンスの読み方）を説明できる。 5. 健康リスク評価の流れ（有害性確認、量‐反応評価、曝露評価、リスク判定）を説明できる。 6. 環境リスクの概念を説明できる。	
DPとの対応	2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能	
授業計画	01. 環境と健康に関する社会問題 02. 環境保健の基礎概念 03. 健康影響の考え方 04. 身近な生活環境と健康リスク（1）室内環境と健康の関係 05. 身近な生活環境と健康リスク（2）食品と健康課題 06. 身近な生活環境と健康リスク（3）感染症と健康影響 07. 物理・化学的要因による曝露と健康影響（1）大気汚染と健康影響 08. 物理・化学的要因による曝露と健康影響（2）化学物質ばく露と健康影響 09. 物理・化学的要因による曝露と健康影響（3）放射線ばく露と健康影響 10. リスク評価・リスク管理とリスクコミュニケーション	
その他の授業の工夫	毎回、講義のポイントを問う小テストを行う。	
時間外学修	事前学修:次回の学習内容について調べ、配布資料等を用いて予習する（6h）。 事後学修:小テストや配布資料を用いて復習する（13h）。	
評価方法と評価割合	小テスト（40%）と筆記試験（60%）	
テキスト	事例で読み解く 環境汚染と健康リスク：大気汚染から気候変動,マイクロプラスチックまで（朝倉書店）	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		